

言語障害教育の専門性を向上するために —言語障害教育実践ガイドブックの作成—

【研究の背景】

本研究が平成18年度に実施した全国調査結果では、言語障害教育の指導対象児が増加し、かつ多様化していることが明らかになりました。言語障害教育を担当する先生方は、構音障害や吃音はもとより、発達障害の特性も含めた多様なニーズに対応できる専門的知識や指導方法を持つことが期待されてきています。

しかし、調査結果によれば、担当する先生の4割強が経験年数3年以下であり、知識や経験が十分ないまま指導に当たっている先生が少なくありません。また、経験を積んだ先生の中にも、指導対象児の多様化に不安感を持っている方もいます。対象児が量的にも質的にも変化しつつある現在、多様なニーズに応えるための知識が得られる言語障害教育実践ガイドブックの刊行が強く求められていると考えました。

当研究所は、これまでも実践的研究を行い、研究成果報告書等を通じて教育現場に最新の知見を提供してきました。平成7年に『通級による指導ガイドブック』を刊行し教育現場で活用していただいたり、平成5年度からは、全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会と共催で初任者対象の全国研修会「はじめのいっぽ」を開催し教育現場のニーズに応えてきたところです。

【研究の目的】

本研究は、『通級による指導ガイドブック』刊行後10年以上経過した現在、言語障害教育を取り巻く状況の変化を踏まえながら、言語障害教育の最新の知見や指導方法について全体的に整理・検討し、その専門性を再確認するとともに、新たな言語障害教育実践ガイドブックを作成することを目的としました。

【研究の方法】

言語障害教育の最新の知見を収集、整理するために以下の方法をとりました。

- ①事例研究：5事例、2年間継続して実施
- ②文献研究：全難言協全国大会、ASHA等
- ③訪問による資料収集：各地の研究大会等
- ④研究協議会：研究協力者からの情報収集と協議

これらの成果を踏まえ、所内研究分担者で、言語障害教育の専門性について整理、検討し、『言語障害教育実践ガイドブック』を作成しました。

【研究の結果から・・・①】

○子どもとの出会いから指導まで過程の整理

言語障害教育を担当する先生方にとって、特に課題となるのは、子どもと出会ってから、どのように情報を収集し、指導内容や方法を組み立てるかということだと考えます。

本研究では事例研究や研究協議会で検討し、研究成果報告書に図1のような流れを提案しました。また、事例研究（5事例）を通して指導の経過の具体例を提示しました。

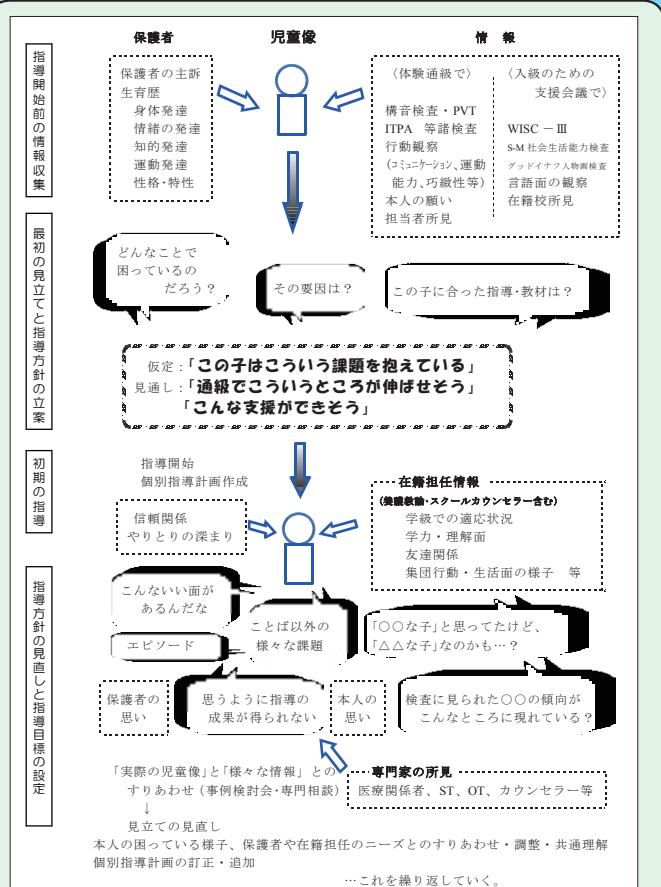


図1 子どもとの出会いから指導までの流れ

【研究の結果から・・・②】

○言語障害教育担当者の役割の整理

言語障害教育では、子どもへの直接的な指導に加えて、通常の学級、家庭や医療機関等との連携が欠かせません。また、学級・教室の経営も重要な仕事です。しかし、経験の短い先生や一人で担当している先生には課題が多いと考えます。

本研究では全難言協(2002)を基本として担当者の役割を整理し、研究成果報告書にまとめました。また、研究協力者の学級・教室での実践を事例として具体例を提示しました。

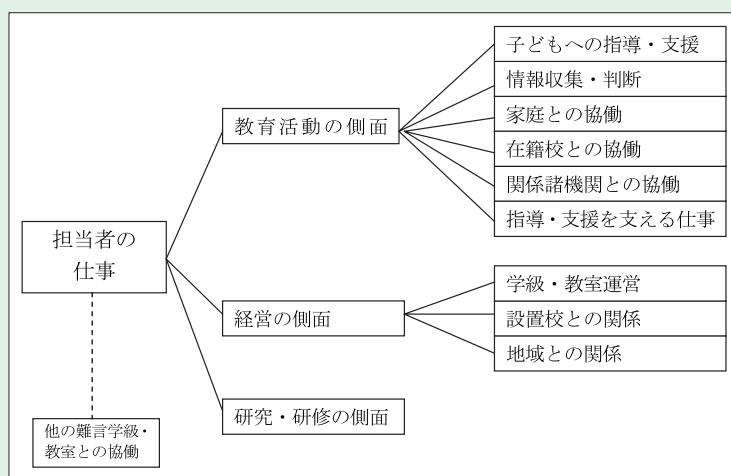


図2 言語障害教育担当者の役割（全難言協:2002を簡略化）

【本研究成果の活用について】

本研究の研究成果報告書は、第2部を『言語障害教育実践ガイドブック』としています。

このうち、指導の実際についてである第3章から第5章では、研究協力者等とともに所内分担者がかわってきた事例を詳しく紹介し、最後に、事例からお伝えしたいことをまとめました。これらの事例から、子どもとの出会いから指導までの流れの実際を理解していただけたと思います。加えて、それぞれの障害ごとに、必要な知識や用語について解説をしました。

第6章では、学級・教室の経営の実際について、全体像を解説した後、研究協力者等の学級・教室事例を紹介しています。学級・教室の経営は、それぞれの学校によって異なる部分もありますが、活動の具体例を多数取り上げています。

『言語障害教育実践ガイドブック』の構成は以下の通りです。

- 第1章 ことばの教室の全体像とガイドブックの構成
- 第2章 子どもとの出会いから指導終了までの指導の実際
- 第3章 構音障害の指導事例と基礎知識
 - I. 構音の指導を中心とした指導事例
 - II. 構音の指導とコミュニケーションへの指導を行った事例
 - III. 構音指導の基礎知識
- 第4章 吃音の指導事例と基礎知識
 - I. 吃音を中心とした指導の事例
 - II. 吃音以外にも支援が必要な子どもの事例
 - III. 吃音への指導の基礎知識

第5章 言語発達の遅れの指導事例と基礎知識

- I. 言語発達の遅れの指導事例
- II. 言語発達の遅れへの指導の基礎知識

第6章 ことばの教室の経営的側面

- I. ことばの教室の経営について
- II. ことばの教室の1年間
- III. 在籍学級との連携・協働
- IV. ことばの教室設置校との連携・協働
- V. ことばの教室担当者の研修
- VI. ことばの教室の地域における役割
- コラム 通常の学級における障害理解授業
- VII. 親の会との連携・協働

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題名（研究期間）】

専門研究B「言語障害教育における指導の内容・方法・評価に関する研究－言語障害教育実践ガイドブックの作成に向けて－」
(平成20年度～平成21年度)

【研究代表者／問い合わせ先】

久保山茂樹（企画部主任研究員）
kuboyama@nise.go.jp